



園だより 2月

いかに幸いなことでしょう あなたによって勇気を出し
心に広い道を見ている人は
イザヤ書 60章 1節



朝夕の冷え込みは例年通りと思われませんが、子どもたちが活動する日中、1月の幼稚園は暖かな陽だまりに恵まれたひと月でありました。

コロナ禍の中、何を行うにも、どこか心落ち着かない思いを拭えない日々でありました。が、小春日和の暖かな中、友達と思いを共有しながら、園庭で元気に遊ぶ子どもたち、それぞれのお部屋で遊びを展開している子どもたち、様々なエネルギー溢れる様子には、例年と変わらない三学期ならではの、個々の成長が感じられました。

子どもたちは、毎日の園生活で「何をしたいのか、何をするのか」を留まることなく頭の中で思い巡らし、それを行動に表しながら遊んでいます。どの遊びを覗いてみても、1学期、2学期とは異なり、遊び込んでいるその姿には目を見張るものが沢山ありました。コロナ禍の中であっても、子どもたちはそれぞれが蓄えている「伸びる力」をその子たちらしく発揮し成長をしているのだと、今更ながらに感動を覚えたひと月でした。三学期は様々なところ、様々な場面で「引き継ぎ」が行われています。園生活においての意識された引き継ぎ、年長組から年中組への「お当番の引継ぎ」も始まりました。でも、引き継ぎは意識的になされるものばかりではありません。子どもたちが心と体をフルに動かしながら遊ぶ今、自然に引き継がれる様子が多く見て取れます。

今年度は子どもたちのつるつる団子作りが継続されています。泥団子を何日も何日もかけてつるつるの団子に作り上げる遊びです。この遊びは泥団子にひたすら白砂をかけながら優しくこするといふ単純作業を継続し続ける根気と、球体を作る手先の技術など色々な「ちから」が必要です。2学期には保育者も一緒に作り方を工夫しながら興味を持った子ども(主に年長児)たちとつるつる団子造りの腕を磨きました。そして3学期の今、その遊びには保育者の姿はありません。興味を持った子ども(主に年中児)たちは、腕を磨いていた年長児から教えを受けています。つるつる団子造りの引き継ぎです。この様に遊びの中で知らず知らず行われている引き継ぎ、園内のそこそこで展開されています。教える方も教えてもらう方も共有するときに身を浸し、穏やかなエネルギーの交流が成されています。なんて豊かな恵みのときでしょう。2月の日々も、この様な豊かな育みが子どもたちに保障されることをひたすらに祈ります。



短いひと月、変わらないお支えを宜しくお願い致します。

園長 駿河 幸子

